〔『法学新報』第32巻4（364）号　大正11年4月5日〕

漫　録

○南洋視察談

本篇は去る一月二十九日中央大学商学会主催の講演会に於て篠窪氏の試みられたる講演の速記にして同氏の訂正を請ふて掲載することとせり

文学士　篠窪　貢亮

私は只今御紹介を受けました篠窪でございます、私は南洋に暫く行つて居つたと云ふので、今日此所に皆さんの前で御話をする光栄を受ける事が出来ましたのは私として非常に喜ばしく感じて居る所であります、唯心配致しますのは、私は肩書にあります通りに文科を出たものでありまして、商学と云ふやうな方は少しも頭にありませぬのであります、故に商学会の方方の御為になるやうな御話は迚も出来さうもないと思ふて居ります、実は初に御断りを致したのでありますけれども、兎に角暖い所へ行つて来て顔色だけでも暖い所へ行つて来たやうな顔色をして居るからそれを見せたら宜からうと云ふ事でありました、それで出て来たやうな訳でございます、更にもう一つ御断りを致したいのは此題でございます、題は南洋視察とございますけれども、実は視察には違ひありませぬけれど方方視察の為に廻つて来たのではありませぬので、自分の口を糊する為に南の方へ行つて居りまして、其間に唯見たり聞いたりした事を御話するので、別段に之と云ふ研究題目を始めから決めて置いてそれに依つて御話するのではありませぬから、どうか其辺も御含置きを願ひたふございます一体南洋と申しました所で中中広ふございまして随分曖昧（曖昧）な言葉でございます、南洋と云ふのは何処を指しますのか其範囲がはつきり致して居りませぬ、人に依りましては之を非常に広く解釈致しまして、亜細亜の南の方から西の方は阿弗利加のマダカスカル、東の方は比律賓濠洲迄入れて、総て之を南洋と言ふて居る人もございます、又吾吾も都合の宜い時にはさう云ふ風に用ゐて居ります、併し普通に申します南洋と云ふのは支那の南の方も這入つて居らないやうでありますし、濠洲は無論這入つて居りませぬやうです、又印度も其中に這入つて居るかどうか疑はしい場合がございます、兎に角南洋と云ふ言葉は甚だ曖昧（曖昧）な言葉であるだけ非常に便利な言葉であります、で私の南洋視察談と云ふのは極く其範囲を小さく願ひまして、自分の知つて居る所より御話が出来ないのでありますから、南洋の中の何分の一に当るか分りませぬが、殆んど勘定の出来ない程小さな新嘉坡の話だけを話させて頂く事に願たいのであります、今度帰ります時にも二度と彼方へ行かれるかどうか分りませぬから、御土産に少し見て来やうと思ひまして暹羅仏領印度支那から支那の南の方を一通り廻つて参りましたけれども、それ等も極く漫遊的に廻つて参りましたので別段調べて来た事も何もありませぬから今日の御話はそれ迄には行

かないだらうと思ひます

先づ第一に新嘉坡の御話をしやうと思ひます、私は甚だ地理の観念に乏しい男でございまして、愈々新嘉坡に行かうと云ふ事になりましてからまあ新嘉坡と云ふのはどんな所か地図の上だけでも見て置かふと思ひまして、地図を開いて見ました所が、あなた方は先刻御承知の通り彼の馬来半島が南の方に突き出で居りまする其馬来半島の真先に小さな島がございまして、それに新嘉坡と書いてございます、其時に始めて新嘉坡と云ふ所は一つの島であると云ふ事を知りましたので、甚だ迂闊な話のやうではありますけれども、之は私ばかりではございませぬので、私が向ふに行つて居ります時分に、之と同じやうな滑稽な例に随分出会いました、それを一つ御話して見まするとと、今から三四年前の事、丁度戦争最中の事でありましたが、九州の長崎県の或村役場から私共の居ります所に手紙が一通参りました、最も私共に宛て来たのぢやありませぬが、行き所のない日本文の手紙は皆私共の所へ集つて参りましたのです、其村役場から出しました手紙の上書に何と書いてあるかと思ひました所が、中華民国新嘉坡何々と書いてありまして、其宛名はお雪様と書いてある、之ではどうも一寸手紙の行き場所に困るだらうと思ふ、それも普通の人が出した手紙ならば私の例と同じやうで、唯笑つて済されますけれども苟も九州の村役場から出た手紙でございます、御承知の通り支那の南の方から香港新嘉坡爪哇方面に出掛けて居る日本人の主なるものは九州人でございます、就中長崎県の人が一番多い、そして其次が熊本鹿児島でありまして、之が彼方の方面に出て居ります日本人の大部分を占めて居ります、即ち此辺の所から在留日本人の殆んど十分の六乃至七を占める程人が出て居る、其村役場の人が新嘉坡と云ふ所は一体何処の領地であるかと云ふ事を能く知つて居らない、中華民国の領地のやうに思つて居る、之で見ましても日本の多数の方方が彼方の方面の事情或は形勢と云ふやうな事に案外暗いと云ふ事が分ります、私も其御多分に漏れず、新嘉坡が島に在ると云ふ事を其時に始めて知りまして向ふへ出掛けたのであります、新嘉坡と云ふ所は只今御話しましたやうに小さな島でございますが、赤道を北に距る事一度十七分、殆んど赤道直下と言つても宜い所でございます、赤道直下と申しますと吾吾が小供の時分に本を読みまして、赤道直下不毛の地と云ふやうな熟語を能く見せられたものであります、で赤道直下だからして何にも出来ない暑くて暑くて堪らない所のやうに思ひますけれども、実際行つて見まするとと左程に暑くない否日本の夏の暑い時よりも余程凌ぎ宜いのです、併し日本の夏よりも凌ぎ宜いからと言うても、それならば温度が向ふの方が低いかと云ふとさうではありませぬ、唯日中非常に暖い所でありますからして、家の建方が暑くないやうにそれを防禦するやうな設備になつて居ります為に、家の中では日本の夏よりも余程楽でありまして華氏の寒暖計の八十九度を超える事は殆んどありませぬ、其代り夏も八十九度であるが秋も八十九度であります、又正月になつても矢張八十九度である、まあ吾吾は日本人であるからしてお正月になりますと餅を搗いてお雑煮を拵へて食べます、勿論

外国米の糯ですから余り粘気のない餅が出来ますが、それでも喜んで餅を搗いて、夫れを雑煮にして、片手には扇のやうなものを持つて煽ぎながら食べて居る、随つて迚も正月のやうな気分にはなれない、さう云ふ次第でございまして、一年中八十九度である、併し家の外は流石に暑くて大きな道路は「アスッ（ママ）アルト」で固めてあるが、それが日中になると熔けて来る、中からは黒い水が出て参りまして、車か何か通りますと車の轍の跡がずうつと附いて波のやうになつて仕舞ふ、其位外は中中暑いのでありますさう云ふ風に暑い所ではありますけれども住つて居るには左程の苦痛はない所でございます併しさう云ふ所ですから流行病と云ふ流行病は殆んど皆あります虎列拉腸窒扶斯ペストと云ふ風に何でもありまするが、妙なものでペストに致しましても日本ではペストが一箇処に出来ますと大騒ぎを致しますが、彼方では一行頓着しない隣にペストが出来た所で其隣の人は平気な顔をして居るどう云ふものか余りに拡がらないさうして彼所に居る人はペストと云ふものは人間の病気ぢやないあれは人間以外のものの病気であるから人間には伝染しないと言つて居る成程西洋人がペストになつたと云ふ事は新嘉坡で未だ曾て無い、日本人も罹らない、ペストに罹るのは彼所に住んで居る支那人か印度人の苦力かさう云ふ者ばかりである、それで彼所に居る外国人が言ふにはペストは人間の病気ぢやない、…支那人の事は人間と思つて居らない（笑声起る）唯斯う申しますと一寸変な所がございますが、之はアトで段段と解釈致します兎に角さう云ふ流行病が日光が強い為であるかどうか知れませぬが余り蔓延しないでひとりでに絶えて仕舞ふのであります然らば新嘉坡にはどんな人間が住んで居るかと云ふと新嘉坡の島と云ふのは周囲が六十六哩ばかりありまして、六十六哩と云ふと随分小さな島であるが其島全体に人口が四十六万ばかりあります、昨年が丁度統計を取る年でありまして、御承知の通り英国人は十年目十年目に所謂国勢調査を致して居ります、此前の調査は千九百十一年でありまして今迄は其千九百十一年の調べに依りまして人口或は新嘉坡の形勢等を言つて居つたのですが、昨年即ち千九百二十一年に十年目の調査を致しました、其調査に依ると新嘉坡の島の中に這入つて居る人口が四十六万人である、新嘉坡は日本のやうな所と違ひまして、大きな村とか、小さな宜い加減な町とか云ふやうなものは殆んどありませぬ、新嘉坡の島の東海岸に沿うて新嘉坡と云ふ町がありまして、其町の中に人間が皆集つて居るので、アトは所謂街道を二哩か三哩行く毎に人家が二十軒か三十軒位づつ弗々在る丈でありまして物の百軒と家の集つた所は殆んどないのでありますそれですから此新嘉坡の島に四十六万人の人間が居ると申しましても、其大部分は新嘉坡の町に居るのであります私が参りました当時は凡そ四十二三万人位は新嘉坡の町に居りました其四十二三万の人間は何処の人間であるかと云ふと、新嘉坡と云ふ島に元から居る人間は皆さん御承知の通り馬来人であります、新嘉坡は馬来人の国であつたので元から住んで居る人間であるから誰でも一寸考へると其人口の大多数は馬来人であらうと素人考には思ふのです所が実際はさうではない、四十二三万人の中

の四分の三迄は支那人である支那人と云ふと怒られるが中華民国の人人である、主に広東人と福建人とであるか四分の三はそれ等の人人ですアト四分の一の中で半分ばかりが馬来人でありまして、印度人も中中居ります、其他は世界中の有ゆる人種が集つて居りまして、彼所に居らないと云ふ人種は殆んどない位であります、阿弗利加人も居り、亞拉比亞人も居る又土耳古人も居れば波斯人も居れば、猶太人も居る、それから日本人も居る其日本人は新嘉坡にどの位居るかと云ふと四千人ばかり居る、戦争最中は日本の勢ひが非常なものでありましたから、それに連れて日本人の数も非常に殖えまして五千人近く迄なりました、併し戦争が済むと共に日本人の勢力も段段衰えて参りまして、其数も減つて、今日では四千人ばかりでまだ少しは減るだらうと云ふ見込みでございます

是等種種雑多な人種はどう云ふ仕事をして居るかと云ふに、大概は分業的になつて居るのが妙であります、元から居る馬来人は一体何をして居るかと云ふと、町の商人には殆んど馬来人は有りませぬ、商ひをして幾らでも儲けて行かうとか、或は商をして自分の国の貿易に幾らでも手助をしやうとか、そんな考を有つて居る者は一人もない唯だ自分は生きて居りさへすれば宜い、まあ死ぬ迄どうか斯うか食つて居りさへすれば宜いと云ふ者ばかりである、勿論之は私が馬来人に聞いた訳ではないが、他から見るとさう云ふ風に見えるのです、幸ひな事には気候の宜しい所だから食物が幾らでもある、麺麭の樹もありますし、バナ、は勿論沢山にある、又タピオカと申しまして澱粉を拵へる薯のやうなものもあります、又椰子の樹がある、椰子の一種にサゴ椰子と云ふのがありまして、其葉を取つて粉にすると澱粉が取れるさう云ふものが到る所に一杯に在るのですから食物には困らない、吾々日本人ですと成程マーケットに行つても食物は幾らでも買へる、町には牛肉屋もあれば野菜屋もあり、酒や醤油等を売つて居る店もあるが、併し吾吾には何の交渉もない、財布の中が膨れて居れば牛肉屋も八百屋も其他の食料品屋も吾吾に頭を下げて其品物を渡して呉れるけれども、不幸にして吾吾の財布が空である場合には町に幾ら食料品が山のやうにあつても吾吾とは没交渉である、所が馬来人の食物は今申しました通りバナ、もあれば椰子の実もあり、其他の食料品は彼等の懐中が膨れて居らうが空であらうが、そんな事には関係なくして彼等の食物である総ての食物は彼等が欲する意の儘に自由に取つて食べられる、斯う云ふ国に生れた者は本当に幸福なのであらうか、丸で天国のやうな天恵の多い国に生れたのだから幸福のやうにも思はれますけれども、能く考へて見ると決して幸福ではない、何故かと云ふと、今日の馬来人と言へば見ただけですぐ分る通りに、馬来人には商をして幾らでも貯蓄をしやうとか或は貿易の仲間に這入つて金を儲けやうとか云ふ考は少しもなくして唯だ自分達が食つて居りさへすれば宜い、死ぬ迄食つて行かれさへすれば宜いと云ふ考で、食物の在る間は少しも働かずに芝原の上に腰を据えまして或者はヴァイオリンに似たやうな楽器を鳴して居る、或者は踊つて居る、或は寝転んで居るさう云ふやうな暮方をして一生を過して仕舞ふので、折角

人間に生れて来た甲斐があるかないか甚だ疑はしい事になる、さう考へて来ると、どうも天与の賜物の多い国に生れた馬来人は幸福であるのか不幸であるのか分らないと思ひます、兎に角馬来人はそんな事で一生を過して居るのだから迚も御話にならないで商人は無論ない、然らば何をして居るかと言へば庭の掃除とか庭番をして居る者が多い、それから会社や何かのオッフイスの走り使をする者、先つ斯う云ふのは馬来人の中でもハイカラな方です

それから印度人は何を遣つて居るかと云ふに、之は中中面白い人種で、印度人と一概に言ひますけれども印度位色色の階級のある所はありませぬ、人種が違ふかどうかは知りませぬが見た所では人種が違ふやうに見える、一つ一つの「グループ」になつて居る、印度人のやうに幾つもの「グループ」のある所は余りないやうに思ふ、尤も支那人は顔は皆同じやうだけれども話をして見ると広東人と福建人とではちつとも話が通じないと云ふやうに「グループ」〳〵になつて居りますが、印度人のはハツキリと別つて居るどうも人種も幾らか違ふだらうと云ふやうな所が一見して分る、其印度人の中にバンカリーと云ふのがある之はバンカリー族と云ふのが何かは知りませぬが、印度には御承知の「パンジャープ」と云ふ国がありまして、其「パンヂャープ」の人間でございます、非常に脊の高い人間で蓬蓬たる髭髯を蓄へ、頭には布を捲き附けて居る、実に容貌魁偉、利巧さうな顔付で一寸見ると恐ろしいやうである、それは何をして居るかと云ふと上海辺りへ行つても居りますが、大抵御巡りさんになつて居る尤も御巡りさんと言つても日本の御巡りさんとは余程格式が違ひます日本の御巡りさんは吾吾が途中で途を聴いたする(ママ)何かするにも此方から頭を下げて鄭嚀に伺ひを立てるやうにして聴く所が他所の御巡りさんはそんな事は要らない此方は大威張で物を頼む事が出来る、丁度吾吾と公衆の為に傭つてある小使のやうなものである、其御巡りさんと、それから夜の寝ずの番、此寝ずの番と云ふのは支那人の多い所であるからして随つて泥棒も多い、そこで銀行や会社や大きな店では「オッフイス」の時間が過ぎますと入口に二人位寝ずの番を置く、之は昼は用がないから寝て居つても宜い、夜だけ長さ五尺位の四つ足の附いたものに縄を網のやうに張つたものを入口の所に置いて、其中に寝ずの番をして居る、丁度昼は寝て居つて夜になると起きて町の中をうろ〳〵歩いて居る日本の火の用心のやうなものです、勿論拍子木などは叩かないが、唯だ自分が傭はれて居る家の番さへすれば宜い其寝ずの番も宵の中は寝ずの番ですが夜中になると案外寝て居る奴が多い、此御巡りさんと寝ずの番の外は何にもしない、否何にもしないのではなくて何にも出来ないのです、奇体な事には向ふの人間は自分のする事は寝ずの番なら寝ずの番は自分が持つて生れた唯一の職業だと思つて居る、其外の事は何にもしなくとも宜いと考へて居るらしい、随つて其外の事は何を遣らしも(ママ)出来ない、バンガリーの事は此位に止めて置きますが、併し兵隊は居ります、新嘉坡では今度の戦争が始まりました翌年バンガリー人だけの兵士の居る兵営で、バンガリーの連中が独逸人の教唆を受けて大謀叛を起

した其士官と云ふのは英国人ですが其英国人の士官を殺し或は普通の人が自動車で其所を通りさへすれば鉄砲でどし〳〵殺した、英国の政府は到頭手の附けやうがなくなつて仕舞つたので、日本の領事の所へ泣付いて来た、平常は日本の領事などと云ふものは彼所に居る英国の総督から見れば人間と思ふて居るのか虫けらのやうに思つて居るのか判らぬやうな態度であしらはれて居るが其時ばかりは総督が泣附いて来た、其所で日本の領事がそれを引受けて、軍艦から陸戦隊を上陸せしめると云ふ事は大分問題になりましたが、在留の日本人が義勇隊を組織し軍隊からは陸戦隊を上げまして、遂に此暴動を取鎮めた事があります、之は大分問題になりまして、今でも問題にすれば問題になりさうな事柄ですが、其話は罷めにしまして唯だバンガリーの兵隊も在ると云ふ事の例だけに止めて置きます、それから吾々が普通キリンと言つて居るタミュユール人と云ふのがある、之はバンガリー人のやうに容貌魁偉な人種ではなくして苧殻のやうに細々とした人種で色は一番黒く実に漆黒な良い色艶をして居る、之は丸で裸体で僅かに腰の周囲に布を捲附け頭にも赤い布を捲附けて居るだけである、キリンは何をするかと云ふと、彼等の専門は道普請です、日本にもああ云ふキリンのやうな専門家が居れば道路は余程良くなるだらうと思ふ、キリンは鶴嘴のやうなものと金の棒の先に分銅のやうな頭の附いた物を持つて歩いて、道が少しでも悪いと思ふと鶴嘴で其所を掘返して新しい石を入れ、地均をして其上を分銅の棒で突いて居る、之は新嘉坡の人足でありまして日給二十五銭貰つて居る、

それでも馬来人よりは余程偉い、此二十五銭の日給で自分達が食べて、幾らでも残るとそれを貯蓄して本国に送金して居る、併し偉いと言つた所が何しろ専門は道普請です又もう一種印度人の中に滑稽なのが居る普通チッテーと言つて居るが何の事はない日本で謂ふ達摩(磨)さんのやうな顔をして居る、彼の達摩(磨)大師と云ふ御方はチッテーの人種だらうと思ふ程良く似て居る、其達摩(磨)さんも一人や二人ではなく沢山居るのでありまして、之は真白な布を肩から掛けて居る、白い布の外は色の附いたものは決して着ない、さうして毛の一杯に生へて居る太い手や足を其儘出して往来の暑い中を傘も差さずに平気で歩いて居る、チッテーは苗字が皆チッテーで何々チッテーと言ふて居る、其商売が亦一番面白い商売で専門は何かと云ふと金貸借です、金を貸すより外には何にも能きない、小川町のやうな大通りへ行つて見ると、毎日沢山のチッテーが来て、一人は向ふの家へ一人は此方の家へ這入つて行く之は日歩で金を貸して置くので毎日其利子を取りに行くのでありまして、其家が如何に忙しからうが忙しくあるまいが、そんな事には一向頓着なく何処迄でもノコ〳〵と這入つて行く、此チッテーの金を借りて居る者が日本人の中に沢山居りまして大変便利なものであります、其金貸印度人のチッテーの外に孟買人も居れば錫蘭人も居り北の方のネパールやビルマの方の印度人も居ります、是等を一一御話して居りますと時間が大分潰れますから大概にして置きますが、併し孟買人や何かを一通り申さないと具合が悪い孟買人や何かは何をして居るかと云ふと、之は小さな店を出しまして商売をして

居る、土耳古人も亦店を出して商売をして居るが或は宝石を持つて歩いて売るか兎に角商業の方を遣つて居る、先づ新嘉坡と云ふ町は商業地でありますから商人が沢山居らなければならぬ筈ですが今迄御話したやうに馬来人―瓜哇人の御話はしませぬでしたが瓜哇人は馬来人の中へ入れて御話したものと御考を願いたい―馬来人は勿論商人ではない印度人も孟買人や其他僅かの者が店を出して居るだけで商人になつて居る者は甚だ少ないのであります。

併し新嘉坡と云ふ町は元来が商業地でありまして商人が一杯居る所である、さうすると此新嘉坡の商人は何処の人間であるかと云ふ事は、もう皆さんに御分りになつたらうと思ひますが、新嘉坡の商業は支那人が一手に占めて居る随つて支那人の勢力と云ふものは新嘉坡に於ては大したものである土地は勿論英国の殖民地であつて政治を遣つて居る、(ママ)者は英国人である、英国の殖民政策はどうであるかと云ふやうな事は只今は御話しない事にしまして、兎に角英国の政治に依つて治められて居る国でありますけれども、其経済上の実勢力と云ふ事になりますと支那人の手に帰して居るのでありまして、其支那人は非常に大きな商人から小さな店を持つて居る者に到る迄皆能く連絡を執つて遣つて居るそこで連絡が能く取れて居りますからして、支那人は小さな店で資本が乏しくても安心して商業が出来る、所で彼処に行つて居る日本人はどんな事をして居るかと云ふ事を一寸御話致します（未完）